

ポンドの魅力とボラティリティー

日本のポンドディーラーで継続的に高いパフォーマンスを残せたという話はあまり聞いたことはない。ただポンドディーリングの好きなディーラーはたくさんいた。よく動くからだ。一発逆転を狙ってポンドに手を出す者も少なからずいた。一言で言えば面白い通貨なのだ。だが面白いと儲けやすいとは一致しない。逆のことが多い。

ポンドは国際通貨でありながら意外とドメスティックな要因で動くことが多いので日本では情報のアクセスの点で少し不利な点があることも一因だろう。でもポンドは止められない。

ポンドは、ジョンソン首相率いる保守党が総選挙で圧勝したこともあり、BREXITを巡る英国内のゴタゴタがとりあえず解消され、先月に上昇の勢いを強めポンドドルは一時1.35を超えた。その後はEUとの具体的な離脱交渉の難しさが意識されたことなどもあり、頭を抑えられた。直近では1.3060水準で推移している。

今後のポイントとしては、一つにはBOEの金融政策がある。今月末の政策委員会での利下げの可能性だ。先週にその可能性が俄に高まった。BOEの委員が利下げを示唆したことや12月のインフレ率の指標が予想よりも低かったことなどが要因だ。0.25%の利下げをすると政策金利は0.5%になる。もちろんポンド下落要因だ。ただ昨日の雇用統計では堅調な数字が出てその可能性は少し低下した。

もう一つは、やはりBREXITだ。BREXITの合意が正式に決まると移行期間内に貿易などについて具体的な取り決めをまとめなければならない。早くEUからの完全な離脱を実現したい英国は、移行期間は年内までと言っているが、EU側は難しいとの見方だ。英国の財務大臣は先週、交渉の如何に関わらず年内で移行期間は終了するので企業などはその準備をすることを促した。実質的な合意なきBREXITの可能性を示唆すると受け取った者はポンドを売った。

三つ目は市場のポジションの偏りだ。市場はポンドのロングポジションが積み上がっている。これ自体はポンドの売り要因だ。

こうして見ると、ポンドは先行き下落する可能性が強いことになる。だがそうはいかないのがポンドのポンドたる所以だ。こんな時ほど下げは短期でその後ショートカバーに悩ませられるものだ。